

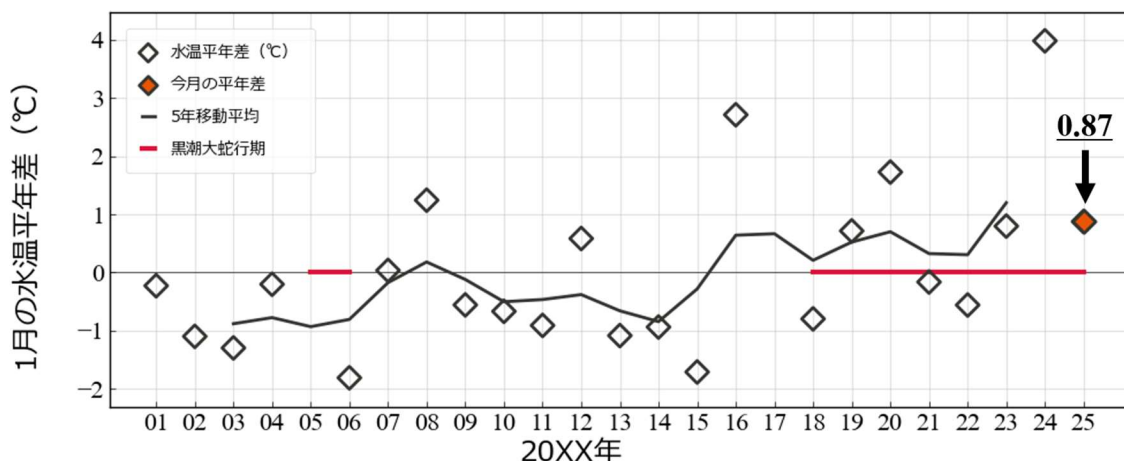
令和 7 年 1 月 21 日

【水温の変動】

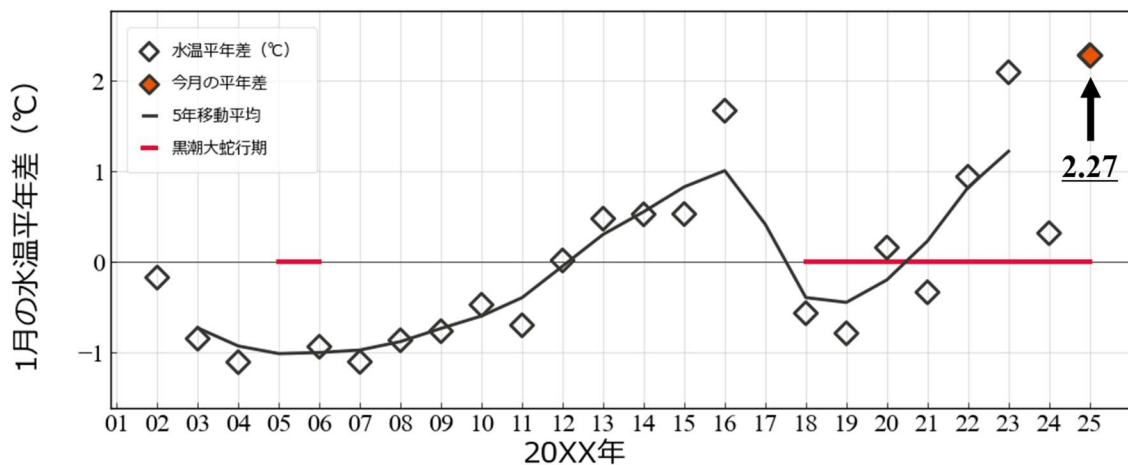
1 月 20、21 日に、調査船海幸丸により渥美外海の観測を実施しました。

湾口部では平年差+0.9℃でやや高め、沖合域 200m 深では平年差+2.3℃で高めとなっています。1 月 20 日の人工衛星画像によると、黒潮は大蛇行流路を継続し、大王崎沖北緯 29 度付近から野島崎沖北緯 34 度へ向かって北上する A 型流路となっています。黒潮は御前崎から離岸傾向にありますが、先週まで御前崎沖を流れていた黒潮の一部が切り離され、現在も暖水渦として熊野灘～遠州灘沖に分布しています。その結果、渥美外海の海面水温は高温傾向であり、渥美半島沿岸域は東向きに流れています。

湾口部表層（A1）における水温平年差の変動



沖合域水深 200m（A4, A12, A19 の平均）における水温平年差の変動



※水温平年差は湾口部が過去 30 年、沖合域が過去 50 年平均値との差

【渥美外海の海況】

湾口部から渥美外海にかけての海面水温は 12.5～19.9℃となっており、伊勢湾湾口付近は気温の低下とともに低水温、渥美外海沖合は暖水渦の分布によって高水温となっています。また、鉛直断面図を見ると、沖合域は等温線が沖に向かって高くなっており、暖水渦の影響で時計回り（東向き）の流れがみられます。クロロフィル a 濃度は、湾口部（P17～A1）の表層～海底付近が高くなっていました。

水温の水平分布図と水温, 塩分, 密度, クロロフィル a 濃度の鉛直断面図

